

上場企業、純利益57%減

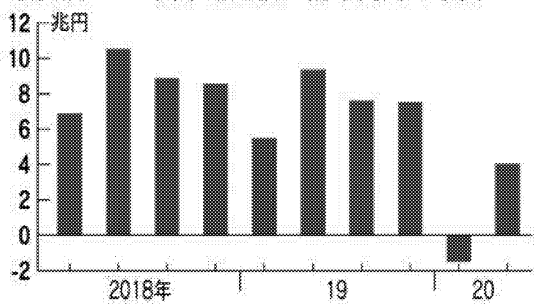
4～6月 7四半期連続マイナス 製造業は85%

上場企業の2020年4～6月期決算がほぼ出そろった。純利益の合計額は4兆575億円と前年同期に比べて57%減少し、7四半期連続で前年同期を下回った。赤字だった1～3月期よりは改善したが、新型コロナウイルスのまん延に伴う世界経済の停滞から自動車や空運、鉄道など運輸関連を中心に幅広い業種で業績が悪化した。

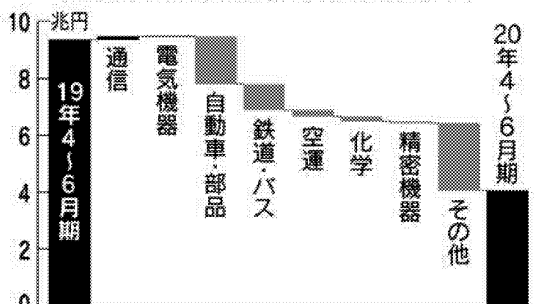
車・精密機器など幅広く

日本経済新聞社が14日、動や設備投資が縮小、個人消費も低迷した。社数1703社を対象に集計した。合計の売上高は前年同期比18%減の126兆1409億円と、12月期以来の低水準となった。世界でコロナ禍が猛威をふるっている生産活動は全17業種中14業種が減少した。製造業は74%減。原価低減など

最終損益は7四半期連続で前年同期を下回った



業種別では自動車の減益額が最大



(注) 新興、親子上場の子会社など除く3月期本決算の上場企業が対象。日経NEEDSのデータを集計

上場企業の主要業種別連結業績動向

単位億円、カッコ内は前年同期・前期比増減率%、▲は損失または減少。上段は2020年4～6月期実績で計1703社を集計。下段は21年3月期通期予想で、売上高と最終損益の予想をともに開示した計1105社が対象

業種名	社数	売上高	経常損益	最終損益
食品	67	31,972(▲3.9)	2,159(▲8.9)	1,405(▲7.7)
繊維	35	11,138(▲19.2)	346(▲59.5)	171(▲68.9)
パルプ・紙	14	10,198(▲12.3)	216(▲59.9)	126(▲58.5)
化学	128	59,001(▲14.3)	3,663(▲37.8)	2,081(▲41.8)
医薬品	27	21,753(▲3.4)	3,913(▲30.6)	2,805(▲21.5)
石油	7	30,854(▲35.5)	▲1,089(赤字転落)	▲1,093(赤字転落)
鉄鋼	32	28,183(▲22.7)	▲798(赤字転落)	▲769(赤字転落)
非鉄金属	73	31,634(▲17.1)	▲289(赤字転落)	▲321(赤字転落)
機械	135	47,958(▲20.8)	654(▲85.1)	50(▲98.3)
電気機器	137	143,762(▲15.5)	9,906(▲1.8)	6,313(▲0.9)
自動車・部品	55	118,442(▲44.5)	▲4,828(赤字転落)	▲6,406(赤字転落)
精密機器	29	10,866(▲22.6)	281(▲77.4)	180(▲80.1)
製造業合計	839	574,445(▲24.8)	14,479(▲70.3)	4,651(▲85.4)
建設	87	54,917(▲7.4)	3,101(▲18.0)	1,951(▲29.0)
商社	160	188,106(▲17.7)	4,833(▲55.3)	3,122(▲59.7)
小売業	63	30,859(▲6.4)	1,114(▲1.1)	262(▲59.5)
不動産	36	19,526(▲7.0)	2,009(▲24.9)	1,216(▲30.0)
鉄道・バス	28	18,962(▲48.7)	▲6,125(赤字転落)	▲5,012(赤字転落)
空運	3	2,011(▲76.6)	▲2,945(赤字転落)	▲2,062(赤字転落)
通信	16	60,047(▲4.4)	16,736(▲34.2)	17,379(▲7.1)
電力	13	47,923(▲7.5)	3,030(▲11.1)	2,004(▲58.4)
サービス	246	67,029(▲7.8)	4,418(▲20.6)	2,162(▲40.2)
銀行	84	56,260(▲9.1)	9,439(▲32.6)	6,543(▲46.1)
金融を含む非製造業合計	864	686,963(▲12.1)	47,255(▲43.9)	35,923(▲41.8)
金融を含む全産業合計	1703	1,261,409(▲18.4)	61,734(▲53.6)	40,575(▲56.6)

(注) 対象は3月期本決算の全国上場企業。ジャスダックとマザーズの上場会社、親子上場の子会社、決算期変更会社を除く。国際会計基準、米国会計基準の採用会社は税引き前損益を経常損益とした。連結決算ではない会社は単独決算で集計。▲は会社予想なし

通期は30%減益

予想開示企業 市場に上振れ期待

上場企業の21年3月期、動向が極めて不透明(「J」)の業績予想は14日時点で、R東日本)などとして鉄道の道や空運では予想の開示割合が未定だ。未定見送りが相次いだ。通期予想を発表した約1100社(全体の65%)の減ったものの、「新型コロナウイルスの影響で今後の収入の21年3月期の純利益は減益幅が小さくなる主な

前期比30%減の見通し。36業種のうち、26業種で損益が悪化する。鉄鋼や自動車など5業種は最終赤字の見込みだ。予想未発表の企業にはソフトバを意味した場合は、想では赤字縮小だ。もっとも、SBGや日

も低下した(内田誠社長兼最高経営責任者)。「機械」の減益率は98%。産業用ロボットに使用される空気圧機器を造るSMCは、自動車向けなどが増るが純利益は14%減った。三菱重工なども赤字転落・拡大だった。航空各社の運休に伴い航空エンジン事業が低迷し「ほとんどの収入がとれなかった」(川崎重工の山本克也副社長)。「鉄鋼」も製造業の生産低迷で鋼材需要が減少した。高炉を一時休止し、非製造業では「空運」の業績悪化が鮮明だった。日本航空(JAL)とANAホールディングスは合わせて約200億円の最終赤字だった。乗客数が大きく減り、550億円の減損損失を計上した。「商社」も苦戦した。三菱商事はオーストラリアの原料炭事業の需要低迷に加え、天然ガス事業が資源安で打撃を受けて大幅減益。住友商事は、海外のニッケル鉱山プロジェクトの操業停止が続き、550億円の減損損失を計上した。好業績企業もある。次世代通信規格「5G」の本格化に伴い、半導体製造装置の東京エレクトロンやディスコが好調。コナミ、任天堂やスクウェアエニックスは増益だった。